

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年3月2日

【評価実施概要】

事業所番号	1171100520
法人名	有限会社 ナーシングケアセンター
事業所名	有限会社ナーシングケアセンターふれあいの家 庄和
所在地	〒344-0112 埼玉県春日部市西金野井39-2 (電話) 048-747-2580

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月4日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 4人, 非常勤 8人, 常勤換算 6.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り	
	2階建ての1階～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円～50,000円	その他の経費(月額)	2,000円+実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり 1,500円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	庄和中央病院、きむら歯科クリニック
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、閑静な住宅街の中に民家を改装して発足し、内部は床の間や違い棚などの名残があり、家庭的な雰囲気が一層感じられるグループホームである。職員は利用者の安全と受容、傾聴等を標榜する法人の理念の下、利用者と共に喜び合い、かつ、尊敬の念を持って日々の生活を支えていく介護に徹し、一人ひとりによく目が行き届くケアがなされている。特に、生活機能の衰え防止、あるいは維持向上に重点的な配慮を行っている。また、演奏会や催し物への参加、四季折々の外出等生活にメリハリを持たせる行事が盛んで、利用者の生活の質の向上に努力をしている。さらに、近いうちに新築中のホーム建物へ移転する計画があり、設備の整ったよりよい環境で一層のケア向上が期待されるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で改善課題とされた介護計画の家族への周知には改善の努力が見られ、また、重度化した場合の対応にあっては利用者家族の意向も聞きながら対応方針、方法の確立に向けて検討が進められている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義を理解し、職員にも評価に参画させて業務の振り返りや気付き等に活かしている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は日常業務が多忙になってきているほか、参加メンバーや議題等に検討課題があり開催が滞っている状況にある。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時や電話連絡の機会に、できるかぎり本人の様子を伝えている。また、意見や要望等を聞き、これらは「家族ノート」にこまめに記録して、職員共通の情報あるいは心得として活用し、介護計画にも活かすようにしている。毎月発行の「ふれあい通信」に一人ひとり手書きで近況報告を行っており、出された意見や要望等については、できる限り業務運営に反映するように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>従来から歌や踊りのボランティアをはじめ、地元中学生の介護体験訪問など地域との交流を深めているほか、昨年から地元の自治会に加入し、地域の一員として回覧を回してもらえるようになった。また、近隣の商店や美容院の利用、散歩時の挨拶の励行、夏祭りや防災訓練での交流など地域との連携強化を進めてきている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	笑顔のある温かな共同生活の中で、職員は利用者の受容、傾聴を心掛け、利用者本位の介護者になり、また、地域への貢献を行って、地域の中で安心して暮らし続けることを目指した独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員採用時によく説明し指導するほか、カンファレンスやミーティング時に理念を踏まえた振り返りを行い、理念の実践に取り組むようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	歌や踊りのボランティアの来訪、夏祭り、防災訓練などにおける地域の人々との交流、近隣の美容院や商店の利用、自治会への加入、地元中学生の介護体験受け入れ等、地域活動への積極的な参加を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は自己評価の意義を理解しており、第1次評価を職員が、その後総合評価を管理者が行った。評価を通じて日ごろの業務の振り返りや反省、気付き等があり、具体的な改善に活かす契機となっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の介護度の進行もあって業務が多忙になり、参加メンバーの中に参加の意義を問う者や議題の検討課題もあって開催が滞っている状態にある。今後は、定期的な開催に向けて努力していく予定である。		運営推進会議は利用者、家族、地域住民、地域包括支援センターや行政の職員など、幅広い立場の人が参加して、外部者の目から事業所のモニター役をしてもらうことに意義がある。事業所提出の議題審議だけでなく、時には利用者と接して感想や提言をしてもらえるように働きかけ、活性化されることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関わる多様な課題解決の相談や、中学生の福祉体験学習受け入れの打ち合わせ等、運営推進会議以外に市の職員の指導や助言を受ける機会があり、サービスの向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には来訪時の面談のほか、毎月発行の機関紙「ふれあい通信」に利用者の暮らしぶりや健康状態を写真、あるいは手書きのメモで報告している。また、急な変化や体調を崩した場合はそのつど連絡している。金銭管理にあつては家族の来訪時に利用者ごとの出納帳を確認してもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪の際の話し合い、苦情窓口の設置等常に家族の意見や希望を聞く機会を設けている。また、ホーム側から重度化について家族にアンケートをとるなど、積極的に意見、要望等を受け、運営に反映させる取り組みを行っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を避けるため、職員との個別相談などの対策を講じているほか、新規採用者はベテラン職員と組んで早く利用者に慣れるようにして利用者へのダメージ防止を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全職種について社内研修を計画的に実施し、年1回の研修旅行、さらに外部研修にも積極的に参加させるなど、法人内外の研修機会を捉え、働きながらのトレーニングに意欲的な配慮をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県東部地区の同業者との研修会を通じてグループホーム間の交流を行い、また、宿泊研修会にグループホームの見学を組み込むなど、勉強会や相互訪問を行ってサービス向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>基本的に「本人が納得してからの入居」としているが、様々な事情で早い段階からの入居もあり、この場合には本人が安心し、早くホームに馴染めるように、部屋作りから言葉掛けるなどきめ細かな工夫をしている。また、家族の来訪を多くしてもらうなど協力も得て、早期に馴染みの関係作りが出来るように努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者から長年培ってきた知識、格言、諺、また体験してきたことなどを教えてもらい、家族のような気持ちで喜怒哀楽を共にし、学び、支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常生活の中で本人の思いや暮らし方の希望を汲み取るようにしている。また、希望などの表出が困難な利用者にとっては表情から読み取るようにしている。さらに、職員が感じたことや受け取った情報については、ケアマネージャーも同席する会議等で話し合い、検討している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の作成にあたって、家族との面談で意見や希望を聞いておき、本人とも話し合っている。さらにスタッフの情報に加えて計画作成担当者が原案を作成し、これを一覧表にして職員の意見を書き加えてから介護計画書案とし、家族に提示して同意を得た上で介護計画書としている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3か月ごとに介護計画を見直しているが、変化が見られる場合は直ちに見直している。また、家族からの意見、要望等に関しては利用者ごとの「家族ノート」を備えて記録し、職員が供覧して情報の共有化と計画見直しに活かすほか、今後は「介護計画モニタリング表」を考案して次の計画に備えることとしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族のその時々状況に応じて、入院や通院、あるいは旅行などの際に付き添い支援を行っている。この支援には法人本部の職員の応援を依頼することもあり、柔軟な支援方法を工夫している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師の検診が毎月1回あり、主治医と家族の面談を行って適切な医療を受けられるようにしている。また、歯科にあっては治療の必要があれば毎週でも往診を受けられるようになっている。一方、別にかかりつけ医がある利用者にとっては原則として家族の付き添いで受診できるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合に備えて、家族にアンケート調査を行い、また、ホームとして対応可能な限度を検討する等、終末期に向けた方針及び体制の整備を進めている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報に関するものは外部者が入れない事務室で保管し、職員にもプライバシー保護を徹底させている。また、日常生活で他人に見られたくないことや、本人が知られたくない過去等にも配慮して、全員が日常の対応や言葉掛けに注意している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間などホームで予定した時間はあるが、本人の希望があれば時間は自由であり、また、散歩、買い物、居室での過ごし方等、利用者一人ひとりのペースを尊重した支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	良質な食事を提供するため法人の会長自らが食材の仕入れに出掛けることもあり、食事は調理師が中心になって作っており、一人ひとりに合った食事が提供され、利用者は出来る範囲で準備や後片付けを手伝っている。また、時々外食したり、出前をとるなどメリハリをつけて食事を楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の体力や健康保持に配慮して週2回としているが、希望があれば予定した日以外でも可能であり、また、シャワー浴など柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し・たたみ、カーテン閉め、箒での掃き掃除、塗り絵など一人ひとりの趣味、生活歴を活かした役割、楽しみごとがあり、職員はそれらに応じた支援を行っている。また、太鼓、三味線等の演奏会、歌や踊りなどボランティアの訪問もあって気晴らしがなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	徒歩や車椅子での散歩、ホーム隣の美容院の利用、買い物など戸外に出掛ける機会を作り、ホーム内に閉じこもらない生活の支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者及び職員は鍵を掛けることの弊害を理解しており、利用者の動向によく留意して、安全上特に配慮の必要がある場合以外は鍵を掛けないケアを実践している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、消防署の指導のもとに通報、消火、避難等の訓練を実施して、緊急時に安全に避難が出来る体制づくりを行っている。また、職員は応急手当の講習を受講して、災害時や利用者の急変時の対応に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂取するカロリー量、水分量などに留意し、個人ノートに摂取量等を記録している。摂取量が少ない利用者には好みの食品を加えるなど、一人ひとりの状態に合わせた栄養摂取や水分補給の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下等、共用の空間には利用者の作品や季節の花が飾られている。利用者が集うリビングからは台所や事務室が見え、食事の準備、後片付けなどの様子が分かる。また、不快な音はなく、光はカーテンやブラインドで調節が行き届き、居心地よく過ごせる配慮がなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家を改装しているので各居室の間取り、構造に合わせて可能な限り住みやすいように工夫を凝らしている。室内には本人が使い慣れた家具、思い出の写真や好みの品々を持ち込み、居心地よく安心して過ごせるように支援している。		